

平成 31 年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」における春日井市全体の結果について

春日井市教育委員会

平成 31 年 4 月 18 日(木)に、小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の春日井市の結果の概要についてお知らせします。

なお、この調査の結果は、児童生徒の学力の一部であることをご承知おきください。また、この調査の詳細は、国立教育政策研究所のウェブサイト「全国学力・学習状況調査」により確認できます。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

1 小学校 6 年生

(1) 教科の状況

状況を見るにあたって、よくできている内容【○】と努力を要する内容【△】の一部及び今後の指導のポイントを紹介する。

【国語・小学校 6 年生】

国 語	状況	正答率：全国平均より低い 分 布：上位層が少なく、下位層が多い
	内容	○目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする。 △学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 △文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。 △目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。
	今後の指導のポイント	
<ul style="list-style-type: none">・漢字の学習指導に当たっては、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにする。そのためには、新出漢字を読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、例えば自分の書いた文章を見直す中で、漢字の意味を考えながら文や文章の中で正しい使い方を習得できるようにする。特に同音異義語については、同じ音からいくつかの熟語を思い浮かべ、それぞれの意味を考えて文脈にふさわしい熟語を選んで書くことができるようにする。・接続語は、文や文章の構成にかかわる語で、前後の文節や文などをつなぐ働きをもち、適切に用いることで前後の文の意味のつながりを明確にすることができる。指導に当たっては、自分が書いた文章を、文の長さという点に注目して読み返し、長くて分かりにくい場合は、文と文との意味のつながりに気をつけたり、接続語の役割を正しく捉えて選んだりするなどの指導を行う。そして、書き直す前と後の文を比べ、文を分けて接続語を使って書き直したことで、伝えたいことがより明確になったという実感をもつことができるようにする。・自分の考えが相手に伝わるように書くためには、事実と考えを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることが大切である。そのため、調べて分かったことなどの事実から自分の考えをもつことができるようにするとともに、事実を客観的に書いたり、その事実と感想や意見との関係を十分に捉えて書いたりできるようにする。		

【算数・小学校6年生】

算 数	状況	正答率：全国平均よりやや低い 分 布：上位層がやや少ない
	内容	○台形について理解している。 ○棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができる。 ○示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる。 ○目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる。 △示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる。 △加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。 △示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。 △示された除法の式の意味を理解している。
	今後の指導のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の合成や分解などの図形の構成についての見方を働かせ、図形の面積を既習の求積公式を活用して求め、求め方について説明することができるようにすることが重要である。指導に当たっては、説明し合う活動を行う中で、例えば「計算で示された数字は何を表していますか」や「この計算はどのようなことを表していますか」などと学級全体に問いかけ、数の意味や演算の意味などを図形と関連付けて説明するようにする。 ・ 計算の順序についてのきまりは、単に暗記するだけでなく、具体的な場面と関連付けながら確実に理解できるようにする。そのために、正しく計算した場合と誤った場合を比較する際、具体的な場面を用いて考えさせ、計算の順序を誤ると式の意味が異なることに気付くことができるようにする。また、順序についてのきまりの理解を深めるために、複数の式を一つの式に表す活動を行い、四則を混合させたり（ ）を用いたりして表すことができるようにする。 ・ 計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにする。そのために、適用する数の範囲を広げていきながら「どの数でも当てはまるようにまとめると、どのようなになるか」などと問い、統合的・発展的に考えさせ一般的に表現できるようにする。 ・ 除法の式の意味を理解できるようにするためには、式と具体的な場面とを関連付ける場を設定することが大切である。例えば、小数の除法を整数の除法に直すときには、除法に関して成り立つ性質が用いられていることを確認した後、それぞれ何を求めている式といえるのかを具体物や図や数直線などを用いて考察することで、どちらも同じ値を求める式であることを振り返るようにする。 		

(2) 学習・生活習慣等の状況

状況調査を見るにあたって、学習・生活習慣等を「生活習慣」「学校・家庭での生活の様子」「自尊意識」「規範意識」「学習の様子」の観点から分析する。

全体の傾向（様子）のよい点【○】と改善が必要な点【△】及び学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連について紹介する。

全体の傾向（様子）【小学校6年生】

【生活習慣】

○朝食を毎日食べている。 ○同じくらいの時刻に起きている。 △同じくらいの時刻に寝ていない。

【学校・家庭での生活の様子】

○学校に行くのは楽しいと思う。 ○新聞を読んでいる。 △読書は好きではない。

○授業でコンピュータなどのICTを多く活用している。 ○授業でもっとICTを活用したい。

○道徳の時間では、自分の考えを深めたりグループ等で話し合ったりしている。

○授業で学んだことを他の学習に生かしている。

△家で、自分で計画を立てて勉強をしていない。 △学校の授業以外に勉強をする時間が少ない。

△地域の行事にあまり参加していない。 △地域や社会をよくするために何をすべきかあまり考えない。

【自尊意識】

○自分にはよいところがあると思う。 ○将来の夢や目標を持っている。

○人の役に立つ人間になりたいと思う。 ○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

【規範意識】

○学校のきまりを守っている。 ○いじめは、どんな理由があってもいけない。

○人が困っているときは、進んで助けている。

【学習の様子】

○国語や算数の授業は大切だと思う。

○国語や算数で学習したことは、将来、社会に出たら役立つと思う。

○算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。

△国語や算数の勉強は好きではない。

△算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書けていない。

学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連

- ・「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝起きしていますか」との質問に肯定的な回答をしている児童ほど、学力調査（国語・算数）の正答率が高くなっている。
- ・「学校に行くのは楽しい」「家の人と学校での出来事について話をすると回答をしている児童ほど、学力調査の正答率が高くなっている。
- ・「学校のきまりを守っている」「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」と回答をしている児童ほど、学力調査の正答率が高くなっている。
- ・「家で、学校の宿題をしていますか」「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」との質問に肯定的な回答をしている児童ほど、学力調査の正答率が高くなっている。
- ・「読書が好き」「新聞を読んでいる」と回答をしている児童ほど、学力調査の正答率が高くなっている。
- ・「自分には、よいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」との質問に肯定的な回答をしている児童ほど、学力調査の正答率が高くなっている。
- ・「授業で学んだことを他の学習に生かしていますか」との質問に肯定的な回答をしている児童ほど、学力調査の正答率が高くなっている。

「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活習慣は、学習面によい影響を及ぼしています。「学校に行くのが楽しい」「家の人と学校の出来事について話をする」など、児童にとって学校生活や家庭生活が良好であることも、学習面と関係があるようです。また、進んで本や新聞を読んだり、自ら計画を立てて勉強に取り組んだりする習慣が身に付くことは、学習成果にもつながると考えられます。

ここ数年の傾向として、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」など、自尊意識が高く、前向きに取り組もうとする児童が増えてきました。一方で自分から家庭学習に取り組む児童が少ない傾向にあり、重要な課題といえます。

学校においても、引き続き、規則正しい生活習慣づくりや一人一人の自尊意識を高めていく取組を進めていきます。また、新しい学習指導要領のねらいに沿った学習指導を展開するとともに、児童に家庭での学習習慣をきちんと身に付けさせる取組にも努めていきます。ご家庭でも、規則正しい生活を支援していただきながら、学校での様子や出来事について聞いていただき、家庭学習でわからないところがあれば一緒に考えてあげてください。家族に聞いて学校で学習したことの理解を深めていくこともあります。そうすることでより勉強が楽しくなり、子どもの向上心もますます上がると考えています。

2 中学校3年生

(1) 教科の状況

状況を見るにあたって、よくできている内容【○】と努力を要する内容【△】の一部及び今後の指導のポイントを紹介する。

【国語・中学校3年生】

国 語	状況	<p>正答率：全国平均と同程度</p> <p>分 布：全国とほぼ同様</p>
	内容	<p>○文書に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。</p> <p>○話し合いの話題や方向を捉える。</p> <p>○書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する。</p> <p>○語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する。</p> <p>△文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ。</p> <p>△封筒の書き方を理解して書く。</p> <p>△相手に分かりやすく伝わる表現について理解する。</p>
	今後の指導のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・説明、解説、論説などの説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開を捉えたり、表現の仕方について考えたりすることが大切である。それらについて、生徒に自分の考えをまとめさせるには、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げるように指導する必要がある、その際文章の構成や展開、表現の仕方について分析するだけではなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりさせるようにする。 ・手紙の基本的な形式に基づき、文字の大きさや配列に注意するなどして丁寧に読みやすく書くように指導することは重要であり、「書くこと」の領域の中の言語活動を通じた学習や、総合的な学習の時間における学習との関連を図って指導していく。その際、手紙を書く相手を具体的に定め、郵便等を通じて実際に手紙のやり取りを行わせ、小学校での学習を想起させながら基本的な形式を押さえることは効果的である。また、日常生活において、意識的に書写の学習の成果を生かすように指導し、例えば、メモやノート、届け出の書類、願書、会議録、ポスターや掲示物といった様々な書式に合わせて、適切な字形や書体で書くなど、書写で学んだ力を広く生活に役立てていく。 ・自分の考えをわかりやすく相手に伝えるためには、話し合いの話題や方向を捉えた上で、話題に対する自分の立場や考えを明確にするとともに、その理由についても話すことが大切である。話し合いの参加者の興味・関心、情報量などを考慮しながら、相手の発言を具体的に言い換えたり他者同士の発言を結び付けて話したりするようにさせる。 		

【数学・中学校3年生】

数 学	状況	正答率：全国平均よりやや高い 分 布：上位層がやや多い
	内容	○簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。 ○平行移動の意味を理解している。 ○簡単な場合について、確率を求めることができる。 ○証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。 ○反例の意味を理解している。 △グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる。 △事象を数学的に解釈し、問題解決方法を数学的に説明することができる。 △資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
	今後の指導のポイント	
<p>【「関数」について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学的に表現したことを事象に即して解釈することは大切である。例えば、具体的な事象について、表で与えられた情報を基に、その数量関係を座標平面上にグラフで表したり、数式で表したりして未知数を導き出すなどの数学的な表現のよさに気付くよう指導する。 ・数学を活用して様々な問題を解決できるようにするために、具体的な場面において、事象を理想化したり単純化したりして数学の問題として捉え、日常生活における問題を数学を活用して解決できるように指導することが大切である。問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について明らかにすることができるようにする。また、それを通して、例えば、グラフを用いればおよその値が一目で分かることや、式を用いれば正確な値を求めることができるなど、問題解決するためにグラフや式を使うことのよさを実感できるようにする。 <p>【「資料の活用」について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会の事象を考察する場面では、資料やグラフなどを適切に読み取り、資料の傾向を捉え、批判的に考察し判断することが求められる場合がある。その際、判断の理由を数学的に説明することが大切である。代表値を求めたりデータの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、説明すべき事柄とその根拠を明確にして説明できるようにする。分布が非対称であったり、極端にかけ離れた値があったりする場合を取り上げ、目的に応じてどのような代表値を用いるべきかを考察する活動を取り入れることもよい。多面的に吟味し、よりよい解決や結論を見いだせるようにする。 		

【英語・中学校3年生】

英 語	状況	<p>正答率：全国平均よりやや高い</p> <p>分 布：上位層がやや多い</p>
	内容	<p>○語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる。</p> <p>○教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる。</p> <p>○まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる。</p> <p>○日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる。</p> <p>△日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。</p> <p>△聞いて把握した内容について、適切に応じることができる。</p> <p>△まとまりのある文章を読んで説明文の大切な部分を理解することができる。</p> <p>△与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる。</p>
今後の指導のポイント		
<p>今回初めて実施された英語の調査は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の4技能について問われた。調査結果については、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計が集計された。（「話すこと」については、参考値として扱われた。）</p> <p>【「聞くこと」「読むこと」「書くこと」について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を正確に聞き取るためには、英語の音声の特徴を踏まえて、事実や出来事などについての必要な情報を正しく理解する必要がある。従って、音源を利用し多くの英語を聞かせたり、教師が自然な口調の英語を用いるようにして話したりするなど、日常的に「聞くこと」を通して理解する活動を繰り返し行っていく。なお、日常の場面では、同じことが2回繰り返されることはほとんどなく、1回だけ聞いて理解したり応じたりすることが自然であるため、そのことを普段の授業から意識して指導する。 ・依頼や提案などの話し手からの働き掛けに対する反応の仕方は、場面や状況、聞き手によって様々であるため、指導に当たっては、聞くだけにとどめずに、把握した内容について適切に応じることができるようにすることが大切である。話し手がどのような人で、何を求めているか、この場面においてどのような応答がふさわしいのか考えさせ、内容を踏まえて自分の考えや意見を表現させるようにする。 ・説明文などの大切な部分を捉える際には、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何であるか等を判断することが大切である。指導に当たっては、文章全体を漫然と読ませるのではなく、繰り返し用いられている語（句）や問いかけなどの手掛かりを基にして、最も大切な語句や文を選ばせたり、各段落の働きを理解させたりする。 ・テーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるようにするために、次の5点のような指導が考えられる。 <ol style="list-style-type: none"> 1 「話して書く」「読んで書く」等の領域を結合した指導を行う。 2 英文を読み合い、よりよく読み手に伝わるように書く指導を行う。 3 書くことを増やすための指導を行う。 4 I、You 以外の主語を用いて書く指導を行う。 		

5 日頃から短時間に自分の考えをもつ指導を行う。

【「話すこと」について】

「話すこと」調査は、学校のコンピュータを活用し、各々のヘッドフォンから聞こえてくる設問に対して生徒自身が音声を録音する形で実施した。

身近な英語の質問に正しく応答することができるかどうか、聞いて把握した内容についてやり取りをすることができるかどうか、また、与えられたテーマについて考えを整理しまとまりのある内容を話すことができるかどうかなどをみる調査であった。

日頃の授業において、継続的に、発話したり、やり取りをしたりする機会を増やし、それができる力を育てることが大切である。指導に当たっては、日常的话题や身近な場面に関わるような表現を扱うことや、時には準備時間を設けず、即興性のあるやり取りや場を設定するなど、教師自身が生徒とやり取りをすることで指導・支援していくことが有効である。

(2) 学習・生活習慣等の状況

状況調査を見るにあたって、学習・生活習慣等を「生活習慣」「学校・家庭での生活の様子」「自尊意識」「規範意識」「学習の様子」の観点から分析する。

全体の傾向（様子）のよい点【○】と改善が必要な点【△】及び学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連について紹介する。

全体の傾向（様子）【中学校3年生】

【生活習慣】

○朝食を毎日食べている。 ○同じくらいの時刻に起きている。 △同じくらいの時刻に寝ていない。

【学校・家庭での生活の様子】

○学校に行くのは楽しいと思う。 ○読書が好き。 ○学校の授業時間以外に、普段、勉強をしている。

○新聞を読んでいる。 ○学校の部活動に参加している。

○授業でコンピュータなどのICTを多く活用している。

○家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする。

○家で、自分で計画を立てて勉強をしている。

△本を読んだり借りたりするために学校図書室や地域の図書館に行かない。

△授業で学んだことを他の学習に生かしていない。

△地域の行事に参加していない。 △地域や社会をよくするために何をすべきかあまり考えない。

【自尊意識】

○自分にはよいところがあると思う。 ○人の役に立つ人間になりたいと思う。

○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

△難しいことに対して失敗を恐れず挑戦していない。 △将来の夢や目標を持っていない。

【規範意識】

○学校の規則を守っている。 ○いじめは、どんな理由があってもいけない。

○人が困っているときは、進んで助けている。

【学習の様子】

○数学の勉強が好き。 ○数学の勉強は大切だと思う。 ○数学の授業の内容がよく分かる。

○数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。

○英語の勉強が好き。 ○英語の勉強は大切だと思う。 ○英語の授業の内容がよく分かる。

△国語の勉強は好きではない。

△国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど話や文章の組み立てを工夫していない。

学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連

- ・「朝食を毎日食べていますか」との質問に肯定的な回答をしている生徒ほど、学力調査（国語・数学・英語）の正答率が高くなっている。
- ・「自分にはよいところがあると思いますか」との質問に肯定的な回答をしている生徒ほど、学力調査の正答率が高くなっている。
- ・「学校のきまりを守っている」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答をしている生徒ほど、学力調査の正答率が高くなっている。
- ・「読書が好き」「新聞を読んでいる」と回答している生徒ほど、学力調査の正答率が高くなっている。
- ・「家の人と学校での出来事について話をする」と回答している生徒ほど、学力調査の正答率が高くなっている。
- ・「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか」との質問に肯定的な回答をしている生徒ほど学力調査の正答率が高くなっている。
- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」との質問に肯定的な回答をしている生徒ほど、学力調査の正答率が高くなっている。

ここ数年の傾向として、規則正しい生活習慣が身に付いている生徒が多く、それが学習面にもよい影響を与えていることがいえます。自尊意識をもち、何事にも前向きに取り組んだり最後までやり遂げたりすることにより、学習成果も上がると考えられます。また、課題解決に向けて自ら考え主体的に取り組む生徒は、学習面にもその力を発揮しているといえます。

さらに、社会性やコミュニケーション能力を向上させるためには、他者と積極的に協働することが必要です。地域の行事等への参加や関わりを増やしていくこともよい方法だと考えます。

学校においても引き続き、規則正しい生活習慣づくりや計画的な学習習慣づくりに向けて、学年に応じた取組を進めていきます。授業では、新しい学習指導要領の実施に向け、生徒が互いに関わり合い、主体的・対話的に学びを深めていくことができるよう指導改善に努めていきます。ご家庭でも、学校や地域のことについて積極的に話題にし、困難に対しても自ら課題解決していくことができるよう励ましたり、相談に乗ったりしていただくことで、お子さんの主体性を伸ばすことができると考えられます。